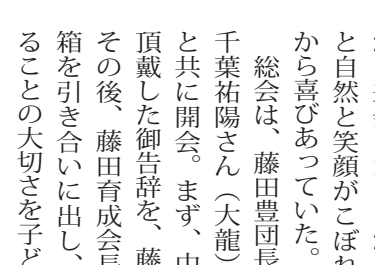




ひきよせ

陽気ぐらしにつながる おつとめを

第 47 回夕張団少年会総会



親神様、教祖がお喜

そして、おつとめ

まなびでは、緊張感に包まれる中にも、子どもたちは陽気ぐらしへつながるおつとめを一生懸命につとめた。殿内から見届ける育成会員は、

その後は、神殿にて鼓笛OB、OGによる鼓笛演奏が行われ、今回は子どもおぢばがえりの新テーマソングである「みちのこキラリ」を披露。ほぼぶつつけ本番に近い状況にも関わらず、心温まる一手一つの演奏が殿内に響き渡り、子どもたちも真剣に耳を傾けていた。そして、渡部辰大委員が寸劇や映像で楽しませながら、こどもおぢばがえりへの参加を促し、最後に藤田団長のあいさつをもって、総会はずべての日程を終え、幕を閉じた。

(岩佐善昭)

3月22日、第47回夕張団少年会総会が行われ、少年会員55名、育成会員60名、計115名が参加。おつとめを一生懸命につとめ、友達との再会を心から喜び、楽しい時間を一緒に過ごした。

今年は雪どけも早く、3月に入ると一時は初春の陽気も感じさせる気候であったが、総会前日は暴風雪に見舞われ、この日もまだまだ寒さ残る日和で、参加者は少し体を丸めながら来会した。しかし、友達と顔を合わせると自然と笑顔がこぼれ、久しぶりの再会を心から喜びあつていった。

び下されるであろうその尊い姿に、信仰を伝えることの喜びをひしひしと感じていた。おつとめが終わると、少年会員のちかいを、千葉祐伍さん（大龍）、藤塚心彩さん（祝梅）二名の会員代表が宣誓。引き続き、少年会の歌を斉唱、最後に閉会のことばを、岡野亮太さん、小馬星愛さん（ともに神宮）がつとめ、総会式は終了した。

昼食には、婦人会が心を込めて作ったカレーライスやおいしいデザートなどを堪能して、午後からはお楽しみ行事。二階大広間で工夫を凝らしたゲームの数々を楽しみ、続いて食堂でビンゴ大会が行われ、子どもたちは夢中のあまり、時間も忘れて思う存分楽しい時間を過ごした。

発行所
天理教夕張大教会
北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

全教一斉ひのきしんデー 4月29日（水祝）
婦人会委員長講習会 5月14日（木）
月次祭 5月15日（金） 9時30分開扉献饗

教えを支えに 上を向いて

三日月次祭の様様



例年より雪解けが早く、春の近付きを感じさせる中、3月の月次祭が執り行われた。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。休日という事もあり、多くの家族連れが参拝に訪れ、賑やかな様子であった。

祭典後には大教会長を祭主に春季霊大祭が執り行われ、この度新たに直轄信者の藤田みつ子姉と中右喜久雄・理喜道四代会長の霊様が合祀され、親族・関係者がお社の前で揃って参拝した。

講話の前に辞令交付があり、新たに2名の少年会隊長が任命され、所属の会長が大教会長より辞令を受け取った。

講話には藤田美重子・札幌分教会長が立ち、「4年程前から両足が痛くなつて歩けなくなり、手術をしました。丸3年経つても腫れが引かず痛みも取れず、骨は無事に付いたんですが、今度は急に腰が痛く



藤田美重子・札幌分教会長

なつてきたんです。段々痛みが強くなつて、腰をまっすぐ伸ばして歩けなくなり、背中を丸めながら大教会の中をやつとの思いで動いていたんです。

方々の病院に診てもらいました。脊髄に痛い痛いブロック注射を打つても、3、4日経てば元に戻つてしまうような感じでした。そして、札幌にある腰痛治療で有名な病院で診てもらおうと、大変な治療法を勧められました。5cm程の電極を脊髄の外側に挿入し、痛くなつたら自分でリモコンを押すと電流が流れて、痛みが楽になる、というものでした。とにかく痛みから解放されたいので、手術をすることにして帰りました。

でも本当はそんなものを身体に入れるのは怖いし、リモコンで身体に電流を流すというのも嫌だな、と思つていました。娘達に相談すると、『そんな治療はすることは

ない、東京においで。東京には色々な専門の病院があるから、東京で病院にかかろう』と熱く言ってくれたので手術を止めて、関東に行くことにしました。

長女が埼玉の朝霞にマンションを借りて一緒に生活する手筈を整え、また病院も探してくれていました。

東京の病院で診てもらったんですが、レントゲン写真を見ると、腰椎の両側の筋肉、特に右側の筋肉がとてつもなく減っていました。お医者さんは『すぐに治療を始めるよりも、リハビリで筋肉をつけてからの方がいい、リハビリの施設に入つたらどうか』と言いました。費用を聞くと、3週間の滞在で37万円。また娘たちに相談すると、筋肉は絶対つくから、半年かかってもついたらいいんだから、と自力でリハビリする事になりました。

まずは座つたままラジオ体操をしました。YouTubeで整形の先生の動画を見て、出来る運動もやりました。娘たちがトレーニングの器具を買ってくれて、それも必死でやりました。あとはとにかく歩きましたね。歩く事は、有酸素運動も兼ねるし、とつてもいいんですね。マンションから駅前まで、車椅子を持って長女が付いてきてくれるので、ゆっくりゆっくり歩きました。

やっぱり、毎日続けるというところが、功を成すんですね。はじめは座つてしていたラジオ体操も立つてやるようになり、そうすると筋肉もついてきて、歩ける距離も伸びていきました。10月にはおちばで前会長さんたちの合祀がありました。娘たちの力も借りて、家族全員揃って参拝することが出来ました。本当にありがたかったですね。

もう一つありがたかったのは、本部の朝づとめではるえ奥様にお会いして、おさづけを取り次いで下さったことです。感激の涙が止まりませんでした。素肌に取り次いで下さつたはるえ奥様の手の触は、忘れる事が出来ません。会長さんも『これは教祖だね』と言ってくれましたが、本当に教祖が与えて下さつたのかな、と思つた、ありがたい出来事でした。

朝霞にいる時に、ある方から電話がかかってきました。修養科で習った教えの素晴らしさと、教会で見聞きする事のギャップに悩み、教会から離れてしまつていたそうです。そんな時、前会長さんとお会い、じっくり話を聞いてアドバイスを受ける中に、近くの教会へ足を運ぶようになったそうです。お会いして、お昼を御馳走になつたんですが、たまたまその方が前会長さんをお店にお連れした

時に座つた、同じ席に座りました。『本当にありがたかったです』と、涙ながらに前会長さんとの話をし下さいました。前会長さんの似顔絵を描いて送ってくれたんです。が、とても似てますね。人柄が伝わる優しい絵で、大切に持っています。

兄が朝霞から一時間の所に住んでいて、何度か行つたり来たりしていたんですが、せつかくだから弟たちも呼ぼう、となつて、北海道から二人の弟も呼んで、私が祭主をして、両親の年祭を務めさせて頂きました。久々に兄弟が集まつて、何を話しても盛り上がりました。茨城の父の実家にも、兄弟揃つて訪ね、色んな思い出を作ることが出来ました。たいへん貴重な時間を過ごしたと思います。

私は、足や腰など、骨の身上が多くありました。その度に『つなぎが足りないのかな』と自省して、通つてまいりました。それでも『何が私に…』と思う時もあります。でも、どんな時でも気持ち落ち、しゅん、上を向いて通ろう、と心掛けてきました。おふでさきに、「にちくくによふほくにわていりする どこがあしきとさらになをもうな」(三・131)「しんぢつに人をたすける心なら 神のくと きハなにもないぞや」(三・32)とあります。私の元気の素になる、

大好きな言葉です。ようぼくとして見せて下さっていることなんだから、あしきと思わずに、助け心を強く持つて頑張つていきなさい、と仰つていると、私は受け取つてゐるんです。

痛みはまだありますが、よろづよを立つて踊れるようになった。車を運転して買い物にも行ける。色々な喜びを与えて頂いているので、そこを喜ばせてもらいたい、と感じているところですよ」と話した。

大教会長はあいさつで「家族をなくした悲しみというのは、癒えるのに時間がかかりますが、私たちの信仰では、朝晩霊様に手を合ませます。生前と変わらないように毎朝、会いたい人に、声をかけます。そしていつかこの世界にまた生まれてきてくれるわけだから、もしかしたら遠い昔のご先祖様はもういらっしやらないかも

しれないけど、この方々があつたら今の自分がいる、というのを忘れないために、霊様をお祀りしています。たくさん大切なご先祖様の、その一番先に教祖がいらっしゃいます。教祖が助けてくれた人が、また人を助けて、そして今の私が生まれてきたと。だからご先祖様を敬つて、ご先祖様を忘れません、おかげで今の私がいま、夕参拝をしている次第です」と話された。また東松島で、津波で亡くなった女の子を発見した現場に花を手向けに行つたことを話され、時間と共に人々の記憶から薄れていくその子の事を忘れずに通つていく、という事を述べられた。

この度、教会長資格検定講習、及び検定を受けさせていただきますました。

教えの基本的な事から長い間離れていた為、とても不安を持つた状態で臨ませていただきました。

初日の小テストから、ほぼ自紙と言つ、非常に情けない状況でしたが、おちばの雰囲気と頼れる同

教会長資格検定講習を受講して

理喜道 中右浩太郎

期達と共に歩ませてもらい、20日間の短い期間で気持ち新たに勉強させていただきました。無事に検定にも合格させていただきました。今後のお道の歩み方にも自信の付く、とてもすばらしく有意義な時間を通らせたいただき、とても良かったと思つていきます。

第44回祝梅若人会総会

3月21日(土)、祝梅分教会におきまして、若人会に携わる会員15名、教会・ひのきしんの方々18名、総勢33名が集まり、若人会総会を執り行いました(左写真)。

当日の朝は雪が降り、厳しい寒さの中での始まりとなりましたが、午前10時より座りづとめを開始いたしました。九十二下り目を一手一つにつとめ終えた後、会長様よりご祝辞をいただき、委員長挨拶、記念撮影を実施いたしました。式典を終えて外へ出ますと、朝方の雪が嘘のように空はすっかり晴れ渡つており、雪解けが進む春の陽気となりました。

従来通りの開催とはなりませんでしたが、今年も若人会総会を実施できたことを大変嬉しく思つております。これもひとえに、教会・



ひのきしんの方々やスタッフのご支援とお力添えの賜物であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。今年度の行事も、その都度スタッフや会長様と相談し、できることを精一杯務めさせていただきます。(祝梅若人会委員長 伊藤伸幸)

詰所勤務者紹介



柴田定明 (錦之旗)

炊事本部で長年勤務していましたが、3月いっぱいまで退職して、4月より夕張詰所で務める事になりました。よろしくお願ひします。

春の一日青年会

3月29日に「春の一日青年会」を開催しました。

例年、「あらかきとよりよう入門塾」として開催されてきましたが、今回より新会員だけでなく、多くの会員に参加してもらいたいと思ひ、名前を変更しました。

今回は大教会のトイレ掃除、神殿掃除、大教会の裏手の倉庫周辺の釘拾ひひのきしんなどを行いました。昼食は懇親会を行い、親睦を深めました。

立教189年青年会の活動目標として、「ひのきしんの実践」があります。今後も青年会としてたくさん

のひのきしんの機会をつくつていきたいと思ひますので、ぜひご参加ください。また、日々の生活の中でもひのきしんへと心に向けていただければと思ひます。(高橋悟志)

庶務部 3月

- ▽教会長資格検定講習修了(3・20) 中右浩太郎 (理喜道)
- ▽おさづけの理拝戴 伊藤 志真 (祝梅) 3・25
- ▽初席 高橋 知暉 (北張) 3・28
- ▽学生生徒修養会・大学の部 3・4~8
- 富山 理雄 (栗山)
- 高橋 悟志 (祝梅) 【係員】
- 渡部 修太 (清真布) 【係員】
- ▽【係員】は、直前研修(3・2)より参加
- ▽学生生徒修養会・高校卒業生コース 3・10~12
- 玉置 美奈 (旭都)
- ▽詰所教養掛・当番 3月 藤田好道(幌都)【当番】
- 4月 藤崎 勇(旭都)

大教会目録抄 3月

- 1日 たすけ推進会議、役員会議
- 4日 岩見沢組・組例会
- 8日 会長、峰延分巡教
- 10日 会長、祝梅分巡教
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭、春季霊大祭
- 19日 月次祭、春季霊大祭
- 21日 月次祭、春季霊大祭
- 22日 月次祭、春季霊大祭
- 23日 月次祭、春季霊大祭
- 24日 月次祭、春季霊大祭
- 25日 月次祭、春季霊大祭
- 26日 月次祭、春季霊大祭
- 27日 月次祭、春季霊大祭
- 28日 月次祭、春季霊大祭
- 29日 月次祭、春季霊大祭

桜咲き誇るおぢば 学生の活気溢れる

3月28日、『教祖140年祭学生おぢばがえり大会』が開催され、夕張からは8名の学生が参加した。

「みんなで勇んで、みんなでつくる、優しさ笑顔あふれる大会を」というテーマのもと開催された今回の大会。夕張学生会も一人でも多くの学生が集い、大会を盛り上げようと、富山理雄委員長を中心に相談を重ね、当日を迎えた。その努力が実ってか、3名もの初参加を御守護いただき、その努力を見定めて、親神様、教祖がお働き下された賜物と、喜びいっぱいのお話となった。式典では、真柱様のメッセージを拝聴し、学生代表による感話には真剣に耳を傾け、大きな刺激をもらった。

その後、夕張詰所で行われた直属アワーでは、藤田大教会長にお話をいただき、昼食には屋外でバーベキュー。直属アワーからの合流となったのは、数年ぶりに神奈川教区学生会とともにおぢば

へ帰り、初参加となった高橋知暉さん（高専5年・北張）。最初は緊張の面持ちであったが、なげない会話の中で少しずつ心の距離を縮め、気が付けばあっという間に時間は過ぎて行った。

翌29日は、朝食後に神殿案内も兼ねて、本部神殿へ赴き御礼づとめをつとめた。そして、感謝の思いを込め、詰所掃除ひのきしんをして、すべてのスケジュールを終えた。

北海道から初参加した大嶋啓介さん（高1・清真布）は「新しい友達を作ることができたり、天理教の教えについて深めることができました。特に印象に残っていることは大教会長さんのお話で、朝づとめなどでやっているおてふりの意味について知ることができ、しっかりと考えながらおてふりができるようになりました」と語ってくれた。今春から天理大学へ進学する富山朱理さん（高

3・栗山）は「明るい雰囲気の中で同じ学生の方の感話や、おつとめを通して多くの学びを得ることができました。焼肉や花見など、参加したみんなとともに楽しい時間を過ごすことができました」と話してくれた。

夕張学生会 新委員長紹介



4月1日付で、富山理雄さんから、大橋宗馬さん（天理大学新1年・由仁）へ、委員長が交代されました。

私は、3月10日から12日に学修高校卒業生コースに初めて参加しました。友達が沢山できて、とても充実した時間を過ごせました！

夏の学修高校の部にも参加する予定でしたが、精神的につらい時期があり参加できませんでした。学修ではお道を通るとは「親神様からのメッセージ」ということを聞きました。「節」は親神様からのメッセージで、陽気ぐらしをさせてやりたいという親心があるということを知りました。

一時期は、日常生活もまともに送れないくらい体調を崩し、食事もとれず、たくさんの人に支えて頂きました。その時は、「なんで自分がこんな目にあわないといけないんだろう、神様意地悪だな」と思っていました。でも、その節から当たり前が当たり前ではないことに気づき、自分は周りの人にたくさん支えられていることに気づきました。

これも節に隠れている親神様からのメッセージを考え、喜びを見つけ出す努力をすることで、辛い出来事への考え方が変わるなと思いました。このことから、これからはどんな時でも喜んで通りたいなと思いました。

玉置美奈（旭都、左写真）



心の成人 道の仲間と 学生生徒修養会

今回の学修大学の部では主にひのきしんについての学びに触れる機会が多かったです。

普段心がけているひのきしんでも、同じ道の子達との話し合いを通じ、新たな気づきや発見を得ることができました。これからひのきしんをする上での、心がけを定めることができたような気がしました。他にも同じ道の子だからこそ話し合えることや、楽しい行事をすることができ、今年も参加することができて良かったと心から思えました。

今回出会えたメンバーやカウンセラー、また参加させてくれた親や詰所の方、学担の先生、親神様に感謝の心を忘れずにこれから通っていきたいと思います。

富山理雄（栗山、右写真）

